

平成26年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

別紙2

推薦者	団体	個人	主な功績
山形県	タカギ 高木イバラトミヨ ホソノカイ 保存会		当該団体は、絶滅危惧種である「イバラトミヨ特殊型」の保護活動を行っている。保護のため、地域住民と連携し、生息地のひょうたん池及び高木川流域において、年3～4回草刈りや河床の清掃を行うとともに、水質等調査に取り組んでいる。また、その活動を通じ地域の子供たちの環境学習にも取り組んでいる。
	ココロ 心のふるさと ニイダガワカイ 新井田川の会		・堤防の草刈りやごみ拾いなどの清掃活動や草花の手入れ等の環境美化活動を行うことで、地域の水環境保全活動に貢献している。 ・美しい山形・最上川フォーラムの「水辺の健康診断」に参加し、バックテスト(6項目)及び透視度の状態を調査している。 ・近隣小学校にける「川の学習」での講話、水質調査の学習支援をしている。また会報チラシを関係機関や川沿いの自治体に配布することにより、地域の水環境保全意識の醸成に貢献している。
茨城県		ナリタ ヒロアキ 成田 浩明	平成5年に水戸工機(株)に入社、平成10年7月に代表取締役となり現在に至っている。その間、水環境に関する知識・技術を修得、浄化槽の適正な施工及び維持管理により生活環境保全の向上に尽力し、主に学校関係や公共施設、事務所等の管理に携わり、水質汚濁の防止に努めている。 また、干潟湖水質浄化推進協会の設立・運営に携わり、水質浄化の市民への啓発に取り組むとともに、茨城県環境保全施設維持管理業協会の会長として、大洗町の海岸清掃を10年間にわたり実施するなど、水質保全・環境保全に尽力している。 平成9年5月に(社)茨城県水質保全協会の監事となり、8年間にわたり協会の堅実な運営の寄与した。さらに、平成17年5月には理事に就任し、同協会の幹部として会員の指導及び技術の向上発展に尽くし、浄化槽の普及啓発のために精力的に活動した。 このような情熱と功績が認められ、平成23年5月に最年少で副理事長に推挙され、行政機関、各業界と連携を図り協会運営に反映する等、適切に理事長を補佐し、業界の発展に寄与している。
千葉県	エドガワ マモ ユカイ 江戸川を守る会 イチカワ シンブ 市川支部		「江戸川を守る会」の本部を置く支部であり、100人以上の会員を擁する。同会の中心的存在として、江戸川の清流を取り戻すため、次のような活動を継続的に展開している。 【主な活動・功績内容】 江戸川河川敷の清掃(江戸川クリーン作成)に毎年取り組んでいる。 また、水環境保全などの啓発を行っており、市民向けイベントへのブース出展や、川遊びや水環境の学習を通じた啓発にも力を入れている。 今年度は設立50周年を迎え、団体内で功労者表彰を開催した。
		コイデ ミホコ 小出 美保子	小出氏は、家庭でできる生活排水対策を市民に広めるため、下水道未整備区域である真間川流域(真間川、大柏川、派川大柏川、国分川、春木川)を中心に、小学校や地元イベントなどで、啓発活動を行った。 これまでの12年間の活動で、約40,000人を対象に生活排水対策の重要性を訴えてきた。 また、市川市等提供される調査結果に加えて、自らも各河川の水質調査を実施し、啓発活動に生かすなど、対象者のレベルに合わせたプログラムの作成にも積極的に取り組まれて、後輩アドバイザーの模範となっている。 こうした活動が実を結び、水質は着実に改善され、平成24年度の調査結果(速報値)では、全ての地点で環境基準を満足し、魚の泳ぐかつての川が蘇りつつある。
東京都	タマガワ 多摩川とびはぜ倶楽部		本団体は、「子どもが裸足で遊べる干潟づくり」の実現を目的に、多摩川大師橋干潟での自然観察や保全活動を通じて、自然や水環境保全について参加者の理解を広めるとともに、地域の人材育成に努めている。 干潟の自然観察では、一般募集した区民を対象に、干潟の生き物観察会やバードウォッチングを実施。参加人数は、平成23年度からの3年間で延べ824名に上る。その他、学校支援やサマースクールも開催し、子どもの自然体験活動を推進。学校や地域住民に、地域の環境資源である多摩川の豊かさや保全の重要性について広く啓発を行った。 また、一般区民との協働で実施される干潟の保全活動では、アシ原の自然環境を取り戻すため、干潟に散乱するごみの回収に取り組んでいる。「海守」をはじめ他のボランティア団体や地域住民と協力し、平成23年度(11回開催)に361kgだったごみ回収量は、平成25年度(12回開催)には155kgまで減少し、環境改善に大きく貢献している。
神奈川県		ヤマモト ヒデユキ 山本 秀行	昭和62年より27年間、河川生物相調査の講師として事業者と共に市内河川の実態を把握し、次世代の水環境の保全を担う子どもたちの育成に貢献した。 河川生物相調査は、茅ヶ崎市・茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会と共催で市内の河川にて生物相調査を年1回実施している。開催当初より講師として参加者である子どもたちや協議会会員へ水と生物とのかわりや生態系的視点でその年に合ったテーマで調査を先導した。
静岡県	イケシロビン カンガ ひょうたん池自然を考えよう会		ひょうたん池は、静岡県磐田市の中心市街地から東へ約1.5kmの西貝塚地区にある周囲約150mのひょうたん形をした池であり、水源は豊富な湧水である。 近年、池の周辺の開発が進んだことから、地域住民113人が、ひょうたん池の豊富な湧水と自然を保全するため、平成7年1月「ひょうたん池自然を考えよう会」を立ち上げた。 現在の会員数は142人であり、年8回以上池周辺の除草作業及び池面を覆う外来種の藻(オオカナダ藻等)の除去活動を行っている。 併せて、会が保全活動の一環として整備した水路は、自然環境学習の場として地域の小中学校に活用されているとともに、最近では、会が地域の小学校へ赴き、水辺の自然環境についての出前講座を開催している。 さらに、ひょうたん池の湧水を活用し、ホテルの飼育に取り組んでおり、さくら祭り(4月)、ひょうたん祭り(8月)やホテル鑑賞会(5月中旬～6月上旬)を開催し、これらのイベントは市民に親しまれるものとなり、水環境の保全の啓発に貢献している。 会の活動は、平成27年2月に20周年を迎える。

長野県		スズキ トモオ 鈴木 富雄	<p>多年にわたり、環境保全研究所に勤務し、生活系排水処理、特に土壌による排水処理に関する研究に取り組み、長野県の特徴でもある山岳地域における屎尿処理において多大なる成果を上げ、その水質保全に大きく貢献した。その傍ら、平成16年からは水・土壌環境グループのリーダーとして後進の指導・育成にも努めた。</p> <p>退職後も環境省の環境技術実証事業自然地域トイレ屎尿処理技術分野の委員を務めるなどその分野の第一人者として活躍している。また、研究面でも信州大学と土壌を用いた水処理技術について共同研究を実施し精力的に活躍する一方、特定非営利法人に所属し、その成果を広く社会に還元している</p>
富山県	ニブチクジチシンヨウカイ 仁歩地区自治振興会		<p>仁歩地区自治振興会は、仁歩川のホタルの保全を目的とし、河川清掃やカワニナ(ホタルの幼虫の餌)の放流などを継続して実施している。</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁歩川やその周辺(仁歩ほたるの里農村公園など)の清掃や草刈りを年2回行っている。 ・ホタルの幼虫の餌となるカワニナの放流を年1回を行っている。 ・平成14年から毎年6月の第4土曜日に「仁歩ほたる祭り」を開催し、地区内外から訪れる人を対象にホタルの鑑賞会などを行っている。 ・とやまの名水「桂の清水」の清掃活動を年8回行っている。
滋賀県	ヒガシノウミズカンキョウジチ 東近江水環境自治 キョウゴカイ 協議会		<p>昔のきれいな長寿寺湾や西の湖の姿を取り戻したい、琵琶湖を多種多様な「いのち」満ちあふれる母なる湖にしたいとの思いから協議会を設立。「きれいな水」を共通のキーワードとして、協議会内に複数の小グループを立ち上げ、環境保全活動に取り組んでいる。</p> <p>協議会全体としては、以下の活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成17年以降毎年、身近な水環境の全国一斉調査に参加し、20地点以上の水質調査を実施している。 ・西の湖のヨシ原を取り戻すため、平成13年より毎年2月にヨシ刈りのボランティア活動を実施した結果、水質浄化と魚の産卵場所が増えるなど、水環境の保全に貢献されている。学生、自治体、企業など、数多くの方が参加され、年々この活動の輪が広がっている。 <p>また、小グループの活動として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「琵琶湖お魚探検隊」では、近江八幡市内で親子参加型体験学習を通して環境保全の重要性を学ぶ場を作り、次世代へつなげる活動の実施(毎月) 例：地曳網体験、水質調査、お魚調査、湖畔清掃等 ・「琵琶湖畔の景観をよくする会」では、長命寺～水ヶ浜までの湖畔の清掃活動を実施(毎月) ・「市民自然観察会」では、西の湖をフィールドに、野鳥や野草の自然観察会や清掃活動を実施(毎月) <p>といった様々な環境普及活動を行っている。</p>
愛知県	チキキカンキョウカクセイカキョウゴカイ 地域環境活性化協議会		<p>当団体は、愛・地球博の理念を継承し、次世代を担う子ども達に環境教育によって自然体験をさせ、森の緑、川の自然を守ることの大切さを認識させることと、行政・企業などの連携により森や緑の保全に取り組む事業を目的として実施している。</p> <p>具体的な活動内容として、尾張旭市の中心部を流れる矢田川において、毎月子ども達と共に水質調査を行い環境の変化について独自で調査を行っている。県の事業でもある「流域モニタリング」や「水質パトロール隊」等にも積極的に参加し報告活動を続けている。平成21年度には、小学生を対象とした「こども環境大学」を開校し、年に10回程各種自然体験をはじめ三河湾等に住む生き物の観察や清掃活動を実施し、自然と触れあうことで次世代を担う子どもたちの心と人格を形成することにも力を注いでいる。</p> <p>また、平成25年度には「矢田川クリーン大作戦交流委員会」を設立し、企業や行政と共に矢田川再生のため積極的な清掃活動や現状分析を行っている。</p>
	トヨアケ 豊明エコキッズ		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちや親や地域の人たちと協力して身近な環境について考え学ぶ事を目的として設立され、地域の河川である皆瀬川の水質調査や環境保全活動を継続的に実施している。 ・年1回8月頃皆瀬川の水質調査をし、レポートを作成している。 ・地域の人たちと協力し皆瀬川のゴミ拾いを実施している。(3～4月頃 年2回) ・河川浄化ポスターを作成し、前後駅前に掲示して河川環境の普及啓発に貢献している。(今年度新しいポスターを作成中)
京都府	キョウトフツキツコウトウガンコウ 京都府立木津高等学校		<p>木津川の支流(和東川とその3支流、布目川、山田川)の2ヶ月に1回の水質調査ならびに年1回河川中の残留農薬(ネオニコチノイド系)の分析調査を実施。これらの内容は、自治体主催の環境展やジュニア農芸化学会、全国総合文化祭などの各種報告会で発表をしている。</p>
兵庫県	アイオイワンシゼンサイセイ 相生湾自然再生 ガクシュウカイ 学習会議		<ul style="list-style-type: none"> ・かつてカブトガニがいた美しい相生湾を取り戻すため、H16年以降水質浄化活動、湾岸清掃活動を開始。10年間の取り組みにより海水の透明度が1m→2mへ改善。 ・H17年からは、「アマモ」苗の移植活動を開始。地元小学生を対象とした環境学習会もあわせて実施。近年、湾内一部でアマモの定着を確認。アイナメやハゼの稚魚が確認されるようになった。 ・H20年からは、地元小学校の環境学習の一環として「シバナ」の保護活動を開始。
山口県	ヤマグチシリツオオドムショウガンコウ 山口市立大殿小学校		<p>山口県の中心街を貫流する「一の坂川」は、桜やゲンジボタルの名所として市民や観光客に親しまれている。</p> <p>これは、大殿小学校の児童による国の天然記念物指定の「山口ゲンジボタル」の保護育成に取り組むことを契機として、地域住民と協働し、定期的な清掃作業や環境美化の啓発活動が行われてきた結果、環境が整い、ホタルが飛び交う町造りが可能となったものでその功績は大きい。</p>

徳島県	トクシマ シ ハチマン フジノカイ 徳島市八万婦人会		地区を流れる冷田川の水質浄化を推進するため、地域の小学校において、毎年、総合学習の時間に、水質検査や「くらしと水の汚れ」についての環境学習の講師を務めるほか、町内会や地域で開催する行事などの機会を利用し、家庭でできる生活排水浄化対策についての啓発活動を実施するなど、地域における環境保全活動の核として活動している。
	トクシマ ケンリツ ジョウセウウツウ ガッコウ 徳島県立城西高等学校 カミ ヤマフシコウ 神山分校		城西高等学校神山分校は、清流鮎喰川やすだち・うめ・さくらといった四季折々の花木など、豊かな自然に恵まれた神山町に位置する。徳島県で唯一、「造園土木科・生活科」を設置する農業高校であり、「農業と環境」の授業の中で、学校の裏を流れる鮎喰川の水質や水生生物を長年にわたって継続して調査するほか、川や周辺の清掃を行うなど、鮎喰川を通じて地域における水環境保全の啓発普及に貢献している。
愛媛県	トクテイヒ エイリカツドウホウジン 特定非営利活動法人 カンキョウ 環境NPO サン・ラブ		平成13年度より、環境NPOサン・ラブの前身である住民団体が1級河川肱川支流の小田川(一部)の河川里親となり河川の清掃や植樹等の活動を年2回以上実施している。 平成20年からは、家庭から排出される廃油の回収を始め、廃油石けんやBDF(バイオ・ディーゼル・ヒューエルの略)の製造にも力を入れ、家庭排水の環境負荷軽減に取り組んでいる。
大分県	セイリョウカイ 聖陵会 ミズカンキョウ イオン カイ 水環境委員会		聖陵会 水環境委員会では流域や地域全体を視野に入れた水環境の保全に向けた取組を行っている。 市内河川の定期的な水質調査を行い、水質悪化の主な原因が生活排水にあるということから、様々な活動を行っている。 また、災害時に飲み水を確保することを目的とした「ろ過装置」を手作りで製作し、実用化に向け、日々改良を続けている。ろ過装置の仕組みや汚れた水を浄化するためには時間と労力がかかることなどを小学生に説明し、水環境保全意識の醸成にも大きく貢献している。更に、植林への参加やホテル生息調査もしている。 これらの活動内容を毎年、冊子やチラシ・ポスター等にまとめ、広く配布することで市民の水環境に対する関心や意識の向上に貢献している。
熊本県	ヨシナガ トシユキ 吉永 敏之		熊本県の在職年数約38年(退職後の再任用も含む)の大半を水環境保全に係る業務に携わられた。その立場も、本庁における水環境行政、出先機関における環境行政及び試験研究機関等と各分野にわたり、常に広い視野からの県民の立場を視野に水環境保全に携わられた。特に河川海域の水質調査、河川の生物調査や水質保全啓発には長く携わり、実態把握と水保全に力を入れて取組まれた。 1 水保全に係る啓発、指導活動(13年) 2 地下水硝酸性窒素汚染対策の普及、啓発(4年) 3 公共用水域の水質監視と結果公表、一般県民への啓発(9年) 4 水質環境基準の類型指定に係る業務(6年)
鹿児島県	トクテイヒ エイリカツドウホウジン 特定非営利活動法人 NPOきね		法人の発足以来、生活排水等の環境問題啓発や子どもの健全育成などを目的として活動を続けている。 具体的には、地域の小中学生を対象とした河川等の水質調査、水生生物調査、結果発表会や地元の特産品である竹炭を利用した用水路等の水質浄化設備の実用化に向けた取組などの活動を通じて、地域住民の水環境保全意識の高揚に大きく貢献している。
		オオニシ マサミ 大西 正巳	平成元年より長年にわたり環境保全行政の推進に精力的に尽力してきた。 閉鎖性の高い鹿児島湾や池田湖の水環境保全に係るガイドラインとして策定した「鹿児島湾ブルー計画」や「池田湖水質環境管理計画」に基づき各種環境保全施策を推進した功績は顕著である。 特に、水環境保全の普及啓発を目的としたシンポジウムの開催や平成の名水100選の選定、環境保全活動を行うNPO法人、地域住民団体等の発掘に精力的に取り組むなど、県民の水環境保全意識の高揚に多大な功績があった。 また、本県の環境保全施策の基本的方向を明らかにした「環境基本計画」の改定にあたっては、その中心的な役割を果たしており、その功績は顕著である。 県庁を退職した現在も、本県の環境学習の中枢である「生命(いのち)と環境の学習館」の運営や地球温暖化防止に係る普及啓発、環境保全活動の支援などに尽力しているところである。
千葉市	ホウジン NPO法人 ミヤコガワ カンキョウ カンガ カイ 都川の水環境を考える会		NPO法人設立以前より、千葉市長からの委嘱により河川浄化推進員として活動し、水質調査及び河川清掃などを実施しつつ、年4回大規模な都川の内川及び周辺の清掃活動を実施すると共に、毎月1回定点10箇所での水質検査と都川全域を対象に季節・水域状況に応じた生態調査や「都川に生息するアユの生態調査」を行っている。 また、地域の子も達を対象に、小学校・公民館などで川や川の生き物の大切さを学ぶ環境学習を行うと共に、川沿いに桜の植樹・草花の植栽などを行い命の大切さの啓発活動もしている。

団体 18

個人 6

合計 24